様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年６月８日現在

機関番号：34601
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2009～2011
課題番号：２１５００７７１
研究課題名（和文）　室町時代物語にみる食文化の研究

研究課題名（英文）　Food cultures of the Muromachi period in fairytale book

研究代表者
小林　美和（KOBAYASHI　YOSHIKAZU）
帝塚山大学・現代生活学部・教授
研究者番号：70195824

研究成果の概要（和文）：近時、食育の問題が重要視され、あらためて日本の伝統的食文化見直しの必要性が認識されはじめている。本研究は、そうした社会的要請を背景として、日本食文化の淵源として位置づけられている室町時代の食文化を、当時盛んに作成された室町時代物語を主たる素材として追究した。室町時代物語の多くは、絵巻や奈良絵本等といった形態で流布しており、それらは視覚的資料としても、当時の食文化・生活文化の実態を知る上で、有益である。本研究では、「東勝寺鼠物語」、「六条葵上物語」「月林草」「精進魚類物語」等の作品を素材として、当時の食文化および生活文化の実態を究明した。

研究成果の概要（英文）：In recent years, the problem of nutrition education is important, traditional Japanese food culture has been re-evaluated again. This study is the background of social trends such. The main focus was to pursue the story as the Muromachi period that was created at that time actively, the food culture of the Muromachi period has been positioned as the origin of Japanese food culture. This study, through the analysis of these stories remains as a picture book picture scroll and Nara, is intended to reveal the reality of the food culture of the Muromachi period.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	700,000	210,000	910,000
２０１０年度	700,000	210,000	910,000
２０１１年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：総合領域
科研費の分科・細目：生活科学・食生活
キーワード：食文化

様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

１．研究開始当初の背景

（１）学問の対象として食文化の領域が認知されるようになったのは、１９８０年代以降とされ、その意味で、この分野の学問的蓄積は決して多いとはいえない。

（２）さらに、従来の研究の問題点は、文化学の一環としての食研究と、栄養学、調理学等の自然科学系の研究が、それぞれ独自に展開され、真に豊かな生活形成のための食の追究という総合的視野が希薄であったという点であろう。

（３）中でも、日本の伝統的食文化研究の分野においては、全時代を包括的にする通史的研究や、特定の食材に焦点を絞った個別的研究はある程度なされてきたが、一つの時代に焦点を当て、その時代の食文化のあり方を再現し、科学的に検証した研究は少ないといえ、今後の研究の進展に俟つところが多い。

（４）室町時代物語作品群は、絵画資料としての側面も相俟って室町時代の食文化の様相を知る上で、きわめて有用な素材であると考えられるが、従来食の分野からのアプローチはほとんどなされてこなかった。その理由としては、この時期の文献を扱う国文学や歴史学の研究者は、食の分野に関する知識・関心が薄く、一方、自然科学系の研究者は、こうした文献を読む機会に恵まれないことが考えられる。

（５）その意味で、中世の文献資料の解明に従事してきた本研究の研究代表者と、栄養学、調理学の立場から食の科学的解明に従事してきた研究分担者の共同研究は、これらの間隙を埋め、室町時代食文化のあり方を具体的に解明する可能性があると考える。

２．研究の目的

（１）近時、食育の問題が重要視され、あらためて日本の伝統的食文化見直しの必要性が認識されはじめている。

（２）しかしながら、日本の伝統的食文化についての研究は、いまだ十分であるといえず、その文化的側面での実態の検証、さらには栄養、健康面からみた科学的合理性の立証は、今後の研究に俟つところが多い。

（３）以上の観点から、本研究は、近代にまたがる日本の伝統的食文化の起点と位置づけられる室町期の食文化を多面的に追究することを目的とする。

（４）すなわち、室町時代の生活文化のあり方を反映している室町時代物語に焦点を当て、生活文化史、調理学、栄養学等の角度から、この時代の食文化のあり方を検証する。そして、最終的には、これらの作業を通して、現代人の豊かで健康的な食生活に資することを目的とする。

３．研究の方法

（１）室町時代物語は、室町時代を中心に制作された短編小説の呼称であり、その種類は、４００種を優に超えている。これらの物語は、この時代に生きた日本人の精神や生活文化のあり方をリアルに映し出すという側面を有しており、この時代の食文化のあり方を知る上で、恰好の資料を提供している。しかしながら、従来これらの物語群の研究は、もっぱら国文学の領域とされ、食の分野からのアプローチは、ほとんどなされていないというのが現状である。

（２）さらに、室町時代物語作品群の特徴の一つは、夥しい伝本の多くが絵巻、絵本の形態で伝来しているという点である。こうした絵画資料は、当時の生活文化の様相をリアルに描いており、その解読によって得られるものは大きいといえる。本研究は、室町時代物語を主対象として、

①食材・食品の実態の考察とその再現。
②調理法と調理の実際の解明とその再現。
③食卓風景と食事作法の解明とその再現。

等の研究を目指している。その際、可能な限り、絵巻、絵本の形態を持つ資料を対象とし、視覚的な面から、この期の食文化のあり方を、生活文化の一環として追究する。さらに、研究分担者の協力を得て、それを実際的に再現する。

（３）以上の観点に立って、本研究では、室町時代物語作品群を対象として、次の諸点の解明を研究の範囲とする。

① 年中行事の実際とその再現
②餅と饅頭をめぐる食文化の実際とその再現
③僧院の食文化の実際とその再現
④飲酒文化の実際とその再現
⑤肉食文化の変容とその再現
⑥茶の湯と茶の子の実際とその再現

（４）なお、本研究は室町時代物語を主たる対象とするが、その補助的資料として、室町時代には該当しない各種絵巻物、『四条流包丁書』、『大草家文書』等に代表される料理書、『庭訓往来』、『尺素往来』等の往来物、『本朝食鑑』等の近世の本草書および雑書、『言継卿記』等の公家日記、各種室町期武家文書等も活用し、この時代の「食」を生活文化の一環という位置付けにおいて、できるだけ具体的に解明することを目的としている。

４．研究成果

（２００９年度）

主要研究課題　『東勝寺鼠物語』等にみる室

町期僧房の食文化
①室町末期に成立した室町時代物語『東勝寺鼠物語』には、９月３夜の月待行事の食事として夥しい数の食品が登場している。それは、一面本作品の往来物的性格によるものといえるが、従来食文化研究という観点から、この物語が研究の対象とされたことはなかったと思われる。そこに登場する食品には、『庭訓往来』等、他の往来物にはその名が見られないものも多く、それらは、室町期の食文化研究にとって、貴重な資料を提供しているといえる。また、そこにみられる叙述は、単に食品・食材の羅列に止まらず、今日必ずしも分明とはいえない室町期禅宗寺院における精進料理の実態を知る上での有益な資料ともいえる。本稿では、題名の由来となっている鼠と人間の食生活との関係という、生活文化史的観点をも視野に入れつつ、このような物語が作成された背景と当時の禅宗寺院における食文化の一端を探った。
②その結果、この物語の描く食事構成は、「初献の雑餉」、「本膳」、「二の膳」、「引物」、「中酒」、「菓子」、「茶」、「点心」、「お持たせの酒」といった要素からなっており、従来この方面の研究で専ら研究対象となってきた一休宗純百年忌の献立にはみられない、中世寺院の法会における食事文化の一端が明らかとなった。
③『東勝寺鼠物語』は、一面往来物的性格を有する作品であるが、そこに登場する食品・食材の数は、従来知られている『庭訓往来』『尺素往来』等といった作品に倍するものがあり、それらは、室町期の食文化研究に有効なものであることが判明した。

（２０１０年度）
主要研究課題　『精進魚類物語』、『六条葵上物語』等にみる室町期精進料理の様相
①異類物なかんずく精進物とも呼ぶべき作品群は、仔細に読めば当時の食生活・食文化のあり様を具体的に示す貴重な資料としての意義を有していると思われる。『精進魚類物語』は、御伽草子異類物語中の白眉として有名であるが、そこに描かれる精進物の世界の背後には、いうまでもなくこの時代の精進料理の存在がある。そして、注目すべきは、『精進魚類物語』の影響を受けながら、精進物を主題に据えた、もしくは当時の精進料理を下敷きにした作品群を想定できるということである。２、３例を上げれば、『東勝寺鼠物語』、『六条葵上物語』、『月林草』などがそれに該当するであろう。これらは、相互に影響し合いながら御伽草子における精進物の世界とでもいうべきものを形成している。本研究では、この間の関係を明らかにした。
②精進料理が寺院にとどまらず広く一般社会に普及をしていき、日本の食文化の主要な要素を占めるに至ったことは、注目すべきことであるが、例えば『六条葵上物語』に登場する「六条」（干豆腐）、「葵」（蕎麦）等の食品・食材、さらにはその調理法は、その具体相の一端を示していて、研究上有益である。本年は、この点を明らかにした。
③室町末期における『精進魚類物語』『六条葵上物語』等の草子類の制作、継承、書入れなどの実態を山科言継、明源院、伊勢貞丈を対象に調査し、それらが時代の食文化の状況を反映する点について検証した。

（２０１１年度）
『月林草』は御伽草子の異類物に分類される作品であり、そこに登場するのは、六条豆腐や夕顔、蕨といった精進物である。これら精進物の数々が、次々と登場し、さも人間であるかのように、自らの境遇や心の悩みを語ってきかせるといったものであるが、仔細に見れば、擬人化された彼等の語りの内容に、当時の食文化、食生活の一端が示されていることがわかる。それらは、古典的修辞によってなされるため、一見分かりにくいが、その内容は具体的で、当時の食生活の実際を知る上で興味深い資料ともなり得ている。本年は、この『月林草』の本文を厳密に分析、同時代の食文化文献・絵画資料と対照することにより、この作品に込められた室町時代末期の精進料理の実態を明らかにすることにつとめた。
②本作品には禅宗寺院を拠点として発展していった精進料理の具体相が、作者による高度なレトリックにより生き生きと表現されており、精進料理の発展期という当時の食文化の実態が明らかになる点が多い。例えば、蕎麦がきや蕎麦切りの調理の実態、六条豆腐の調理法、この時代に起源を持つと考えられる干瓢の製法等、他の文献にはみられない記述が散見している。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）
①小林美和、冨安郁子「『東勝寺鼠物語』等にみる室町期僧房の食生活」、帝塚山大学現代生活学部紀要６号、２０１０年、９～１８頁、査読　無、

②小林美和、冨安郁子「室町期食文化資料としての物語草子とその周辺－精進物の系譜および伊勢貞丈書入本など－」、日本文化史研究４２号（帝塚山大学　奈良学総合文化研究所）、２０１１年、４５～６０頁、査読　無、

③小林美和、冨安郁子「御伽草子『月林草』にみる室町期の食文化ー」、帝塚山大学現代生活学部紀要８号、２０１２年、１～１０頁、査読　無、

〔学会発表〕（計１件）
日本家政学会食文化研究部会平成２１年度大会研究発表、「食文化研究資料としての室町時代物語」（平成２１年１１月１５日　実践女子大学）

〔その他〕
帝塚山大学公開講座、「物語・絵巻にみる室町時代の食文化―日本食の原点を求めてー」（平成２２年３月１８日　帝塚山大学）

６．研究組織
(1)研究代表者
小林　美和（KOBAYASHI　YOSHIKAZU）
帝塚山大学・現代生活学部・教授
研究者番号：70195824

(2)研究分担者
冨安　郁子（TOMIYASU　IKUKO）
帝塚山大学・現代生活学部・教授
研究者番号：10123671